



医療法人社団 唱和会

明野中央病院



2014年度 事業報告書 vol.8

(2014年4月～2015年3月)



ホームページもご覧下さい | 明野中央病院

検索

看護部ブログも更新中 フェイスブックもチェック! いいね!



病院理念

医療・介護を通じ、患者さんの生活の質の向上に努める

基本方針

- 一．家庭的な優しい医療・介護の実施に努めます
- 一．地域の皆様から安心・信頼される病院づくりに努めます
- 一．患者さんひとりひとりの権利を尊重するように努めます
- 一．たえず医療・介護の質の向上に努めます
- 一．地域の健康増進・病気の予防に努めます

ご 挨 拶



院長 木下 昭生

小松左京の「日本沈没」が上梓されたのが 1973 年、今から 50 年以上前になります。その後、この小説は映画化され、近年にはその続編の映画が上映されるなど大きな話題となりました。

昨年、日本創生会議・人口減少問題検討分科会から発表されたいわゆる“増田レポート”は、何の対策も取られずこのまま少子高齢化が進めば、近い将来日本沈没ならぬ日本消滅が起こるという衝撃の内容でした。2040 年には全国の自治体の 50 %が急激な人口減少に遭遇し将来消滅する可能性があるということです。さらにこの消滅可能都市のうち約 3 割は 2040 年時点で人口が 1 万人を割る可能性があるとしています。

その日本創生会議が、今年の 6 月に新たな問題提起を行いました。首都圏を中心に将来発生する「介護難民」の話です。創生会議の提言では、今のうちから医療介護に“余裕のある”地方自治体へ移住することを勧めています。しかし、医療介護が充実した地方自治体の多くが医療費や介護保険料の増加、医師不足や医療介護スタッフの確保に頭を悩ませており、また、国が推進する地域包括ケアシステムと相反するものであり、そう単純にはいかないようです。

そんな中で国は地域医療構想策定ガイドラインを発表しました。将来の医療構想の権限の一部を国から県や自治体に与えたもので、国は決して“医療ベッド削減ありき”ではないことを強調していますが、社会保障費削減が念頭にあることは明らかでしょう。

2025 年を 10 年後に控え、日本の医療や介護（それだけではありませんが）の将来は大きな絡まった糸のような状態です。この絡まっている糸を上手にほぐしてくれる“賢者”が登場してくれることを念じてやみませんが、それだけでなく、私たち国民一人ひとりがもっと真剣に日本の将来を考える必要があると思います。

さて、2014 年度の明野中央病院年報が完成しました。当院の現状を少しでもご理解いただければと思います。ご一読いただければ幸いです。



目 次

地域交流会（ふくろうの会）	1
ボランティアの会	3
病院概要	4
病院沿革	6
創設者 中村裕について	7
職種別職員数	7
組織図	8
年間行事	9
明野中央病院健康セミナー	12
明野クララ元気ツアー	15
コラム ちょっと一息	20
花日記 ～2階ウッドデッキから～	21
今昔写真館	23
部門報告	
＜医療安全管理室＞	26
＜地域医療連携室＞	27
＜こつ・かんせつ・リウマチセンター＞	28
＜診療部＞	
内科	29
消化器内科	31
整形外科	32
麻酔科	34
診療情報管理室	35
＜医療技術部＞	
薬剤科	36
栄養科	37
リハビリテーション科	39
放射線科	43
臨床検査科	44
臨床工学科	46



<看護部>

看護部	47
外来	50
2階病棟	51
3階病棟	54
手術室	56

<事務部>

事務部	59
医療事務課	60
明野中央介護支援センター	62
訪問看護ステーションふくろう	63

委員会報告

<委員会>

医療事故防止委員会	65
感染対策委員会	68
褥瘡・栄養対策委員会	70
サービス向上委員会	71
教育委員会	72

<その他>

N S T（栄養サポートチーム）	74
糖尿病相談会	76
深部静脈血栓チーム	77
禁煙サポートチーム	78
親和会	79

新聞報道	81
------	----

新入職員1年を振り返って	85
入職5年を振り返って	86
入職10年を振り返って	90
入職15年を振り返って	91

地域交流会（ふくろうの会）

1. 設立目的

当院は、病院理念に「医療・介護を通じ、患者さんの生活の質の向上に努める」を掲げ、地域の皆様から安心信頼される病院作りを目指し日々努力しております。さらに今後も真に地域に根ざした医療機関として皆様方の期待に応えられる病院としてのあるべき姿を模索しております。

そこで、広く地域の皆様方と意見交換を行い、医療全般に関する苦情、要望、地域の病院として当院の果たす役割等についてご意見を頂きたく設立しました。

2004年9月発会。

2. メンバー 2015年3月現在（敬称略）

- 湯田 国男 （ふくろうの会会長）
- 山田 軍才 （明野日の出町自治会長）
- 岩崎 祐一 （明野高尾自治会長）
- 首藤 和也 （明野東町自治会長）
- 小柳 義明 （明野旭町自治会長）
- 飛河 克子 （日本リウマチ友の会大分支部長）





第 16 回 明野中央病院・地域交流会（ふくろうの会）

2015 年 4 月 22 日（水） 12：30～13：15

1. 院長あいさつ
2. 新任医師の紹介 ・こつ・かんせつ・リウマチ副センター長 原 克利先生
・麻酔科副部長 高谷 純司先生
3. 昼 食
4. 訪問看護ステーションふくろう開設
5. 明野中央病院増改築について
6. 意見交換
7. 湯田会長ごあいさつ

※ご出席者（順不同）

湯田 国男 様（ふくろうの会会長）
山田 軍才 様（明野日の出町自治会長）
岩崎 祐一 様（明野高尾自治会長）
小柳 義明 様（明野旭町自治会長）
飛河 克子 様（日本リウマチ友の会大分県支部長）

※当院出席者

木下院長
中村副院長
里谷事務長
鈴木看護部長
安部総務課長

ボランティアの会

1. メンバー 2015年3月現在（敬称略）

会 長 志水 篤信

副会長 赤田 久代

加来 邦子

高平 潤子

田代 千枝

倉住 れい子

高木 美和

坂井 礼子

石田 洋子

佐々木 友江

2. 活動内容

- ・ グリーンボランティア
- ・ 各種イベント企画
- ・ ガーデンティーパーティー
- ・ 講演会手伝い等



花壇の植え替え



一日看護師体験



ガーデンティーパーティー



ボランティアの皆さん



病院概要 (2015 年 3 月現在)

診療科目	内科／整形外科／リウマチ科／消化器内科 形成外科／リハビリテーション科／麻酔科（森正和）／放射線科
病床数	75 床（一般） 2 階病棟 一般：45 床（地域包括ケア病床 10 床含む） 3 階病棟 回復期リハビリテーション病棟：30 床
研修施設	日本整形外科学会研修施設 日本手外科学会研修施設 日本リハビリテーション医学会研修施設 日本高血圧学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設
学会認定 専門医・指導医	日本内科学会 専門医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医 日本整形外科学会 専門医 日本脊椎脊髄病学会 指導医 日本手外科学会 専門医 日本リハビリテーション医学会 指導医 専門医 日本リウマチ学会 指導医 専門医 日本消化器病学会 専門医 日本消化器内視鏡学会 専門医 日本神経学会 専門医 日本麻酔科学会 専門医 日本集中治療医学会 専門医



施設基準

7 : 1 入院基本料
診療録管理体制加算
医師事務作業補助体制加算
急性期看護補助体制加算
栄養サポートチーム加算
感染防止対策加算
救急搬送患者地域連携受入加算
後発医薬品使用体制加算
病棟薬剤業務実施加算
データ提出加算
回復期リハビリテーション病棟入院基本料 1
地域包括ケア入院医療管理料 1
糖尿病透析予防指導管理料
外来リハビリテーション診療料
ニコチン依存症管理料
地域連携診療計画退院時指導料(Ⅰ)
がん治療連携指導料
薬剤管理指導料
在宅療養支援病院
在宅時医学総合管理料又は特定施設入院時等医学総合管理料
検体検査管理加算(Ⅱ)
CT 撮影及び MRI 撮影
外来化学療法加算Ⅰ
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術
胃瘻造設術
輸血管理料 2
輸血適正使用加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
麻酔管理料



病院沿革

1974(昭 49)1 月	医療法人社団恵愛会 大分中村病院の分院として開院。(病床数 65 床) 同時に『救急指定病院』『労災指定病院』の指定取得
1978(昭 53)11 月	『医療法人社団唱和会 明野中央病院』として、分離独立
1997(平 9)3 月	社団法人日本整形外科学会認定医制度による『研修施設』認定取得
1999(平 11)5 月	第一期増築工事完成 (病床数 70 床) バイオクリーンルーム設置 ヘリカル CT 設置
1999(平 11)7 月	身体障害者福祉法第 19 条の 2 の規定による『更生医療を担当する医療機関』の指定取得
2002(平 14)年 6 月	第二期増築工事完成 (病床数 75 床)
2002(平 14)年 7 月	MRI 設置
2002(平 14)年 9 月	パワーリハビリテーション機器導入
2004(平 16)年 1 月	一般病床 45 床、特殊疾患療養病棟 (30 床) に変更
2004(平 16)年 3 月	『臨床研修病院』指定取得 (厚生労働大臣指定)
2005(平 17)年 9 月	一般病床のうち、8 床を『亜急性期入院医療管理料』として届出
2005(平 17)年 10 月	日本医療機能評価機構 認定取得
2006(平 18)年 4 月	『亜急性期入院医療管理料』を 8 床から 10 床に変更 院外処方箋発行開始
2006(平 18)年 9 月	マルチスライス CT 設置
2007(平 19)年 2 月	特殊疾患療養病棟 (30 床) を回復期リハビリテーション病棟 (30 床) に変更
2008(平 20)年 1 月	日本手の外科学会 基幹研修施設に認定
2008(平 20)年 10 月	回復期リハビリテーション病棟入院料 1 (重症患者回復病棟加算)
2009(平 21)年 7 月	『こつ・かんせつ・リウマチセンター』開設
2009(平 21)年 11 月	『日本リハビリテーション医学会 研修施設』に認定
2010(平 22)年 4 月	『日本高血圧学会 高血圧認定研修施設』に認定 『日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設』に認定
2010(平 22)年 9 月	『日本リウマチ学会教育施設』に認定
2010(平 22)年 10 月	日本医療機能評価機構 Ver.6 更新
2014(平 26)年 4 月	亜急性期病床(10 床)を地域包括ケア病床(10 床)に変更

創設者 中村裕について



創設者 中村 裕（1927 年～1984 年）

1951 年	九州大学医学部卒業 同大学整形外科医局に入局
1960 年	英国ストーク・マンデビル病院に留学
1961 年	第 1 回大分県身体障害者体育大会を開催
1964 年	東京パラリンピックの日本選手団長を務める（以降、1980 年までの全ての夏季パラリンピックの団長を務める）
1965 年	大分県別府市に、障がい者の自立を目的とした「社会福祉法人 太陽の家」を設立
1975 年	第 1 回極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会（フェスピック）開催
1981 年	第 1 回大分国際車いすマラソン大会の開催に尽力
1984 年	死去 享年 57

当院は、1974 年 1 月に創設者であり前理事長である中村裕により開設されました。中村裕は、日本ではまだ「リハビリテーション」という言葉も普及していなかった昭和 30 年代に当時の医療先進国イギリスに渡り、最新の医療事情、特に障がい者の社会復帰のためのリハビリテーションと障がい者スポーツを学びました。その経験を日本に持ち帰り、1965 年に障がい者の社会復帰を支援する社会福祉法人「太陽の家」を創設しました。整形外科の医師としては、大分中村病院（1966 年 12 月）と明野中央病院という 2 つの病院を開設し、障がい者スポーツの分野では、東京パラリンピックや極東・南太平洋障害者スポーツ大会（フェスピック）などの開催に尽力しました。1981 年の国際障害者年を記念して中村の提唱により始まった「大分国際車いすマラソン大会」は、すでに長い歴史を刻み、今では世界最高レベルの障がい者スポーツ大会として世界中の車いすアスリートの目標となっています。

職種別職員数

141 名

（2015 年 3 月 31 日現在）

医 師	9 名	診療放射線技師	3 名
薬 剤 師	3 名	臨床検査技師	3 名
看 護 師	65 名	臨床工学技師	1 名
准 看 護 師	2 名	管理栄養士	2 名
看護業務補助者	14 名	医療ソーシャルワーカー	1 名
理学療法士	12 名	事務職員	18 名
作業療法士	6 名		
言語聴覚士	2 名		



組織図

2015 年 3 月 31 日



年間行事

2014 年 4 月

- 親睦会
- 医療ガス・救急研修会

2014 年 5 月

- 中学生一日看護師体験
- 第 13 回 ガーデンティーパーティ
- ふれあい看護師体験
- 院内感染対策研修会
- 防災訓練



医療ガス・救急研修会



中学生一日看護師体験



防災訓練

2014 年 6 月

- 医療倫理研修会
- 第 9 回 ボーリング大会



医療倫理研修会



ボーリング大会

2014 年 8 月

- NST研修会
- 慰霊祭



2014 年 9 月 ○中学生職場体験
 ○サービス研修会



中学生職場体験



サービス向上研修会

2013 年 10 月 ○第 1 回 ソフトバレー大会
 ○第 14 回 ガーデンティーパーティ
 ○院内感染対策研修会



ソフトバレー大会



院内感染対策研修会

2014 年 11 月 ○院内研究発表会
 ○明野中央病院健康セミナー
 ○原岡先生講演会

2014 年 12 月 ○忘年会
 ○防災訓練



防災訓練



2015 年 1 月 ○第 7 回 新春明野寄席

2015 年 2 月 ○医療ガス・防災研修会



新春明野寄席



医療ガス・防災研修会

2015 年 3 月 ○病院総会



病院総会

明野中央病院健康セミナー

“精密機械”『北別府学』講演会

11月24日（祝）あけのアクロスタウン3階アクロスホールにて、恒例となりました「明野中央病院健康セミナー」を開催しました。今回は元広島カープの北別府学氏を講師に迎え、たくさんのお客様にお集まりいただきました。会場には広島カープの帽子をかぶった往年のファンや「丸選手が大好き!!」というカープのユニフォームを着た”カープ女子”の姿も!! 市内の現役高校球児57名の学生服で坊主頭の団体様も来てくれました。北別府さんから高校球児たちに激励のメッセージ。「みんなレギュラーを目指して一生懸命練習していると思うが、現実には3年間補欠で終わる部員もいる。試合に出られないとわかっていても、一生懸命練習する。3年間悔しい思いをする。しかし、これからの長い人生において、この経験は必ず貴重な意味を持つ。だから3年間、諦めることなく、野球をやり通してほしい」。数多くの修羅場を潜り抜けた伝説の投手。その優しい言葉が心にしみる講演会でした。

明野中央病院 健康セミナー

20世紀最後の200勝投手
広島カープ・赤ヘル黄金期を築いた伝説の右腕

“精密機械”『北別府学』

- ・勝負師を支え続けた「丈夫な体」と「負けない心」
- ・プロ野球選手に学ぶ健康づくりのツボ!
- ・心も体もイキイキ健康ライフのすすめ

高校時代、学校まで往復40kmの道を自転車通った。無名の投手だった。素速球投手ではなかった。75年ドラフト1位で広島カープに入団するもプロの“スピード”の厚い壁に衝撃を受けた。「ボールの速さではかなわない!」…苦しい日々、緻密な制球力と頭を使う投球術に活路を求めた。練習後のグラウンドに独り残り、理想の技を追求した日々。「負けるもんか」。

正確無比なコントロールを身に付けた“精密機械”。は、19年間の現役時代に5度のリーグ優勝と3度の日本一に貢献し、山本浩二、衣笠祥雄らと共に赤ヘル黄金時代を築き、エースとして通算213勝という日本プロ野球史上に残る成績を残した。

プロスポーツ選手として、地道な体調管理を行いながら偉大な記録を残してきた北別府さん。現在も、野球解説、テレビ、ラジオ番組への出演、講演活動など超多忙な日々を送っています。その元氣と健康維持の秘訣をお話します。



日時 平成26年11月24日(祝)
13:00~14:30

場所 あけのアクロスタウン
3階アクロスホール

参加費 無料 整理券をご持参下さい。
整理券は明野中央病院受付・明野地区自治会連合会・
明野地区公民館・あけのアクロスタウン総合案内で
配布しています。

13:00~健康講座
スポーツのケガを防ごう
～スポーツ障害の予防と治療～

明野中央病院
こころ・からだ・リウマチセンター
副センター長 原 克利

13:30~14:30
北別府学 講演会

■主催 明野中央病院 ■共催 明野中央病院ふくろうの会
■後援 明野地区自治会連合会・大分市明野地区公民館・東トキハインダストリー・
大分合同新聞社・OBS大分放送・TOSテレビ大分・OAB大分朝日放送・広島カープ大分後援会
■お問い合わせ 明野中央病院 電話097-558-3211 mail:akenohp@fat.coa.or.jp

※裏面にご覧下さい

明野中央病院 健康セミナー

講師紹介 北別府学 (きたべつぷ まなぶ)



カープファンも、
そうじゃない人も集まれ~!!
北別府さんへの質問も受け付けます。
野球のこと、健康管理や趣味のことなど
北別府さんに聞いてみましょう。

元プロ野球選手(投手)。1975年ドラフト1位で広島東洋カープに入団。コントロールの精度、緻密な投球術から“精密機械”の異名を取る。82年に20勝を挙げ「沢村賞」を獲得。86年、最多勝、最優秀防御率、最高勝率、沢村賞、年間MVPに輝く。92年に200勝を達成し20世紀最後の200勝投手となる。現役時代に残した通算213勝は日本プロ野球歴代第18位。先発勝利数200勝は歴代第10位の記録。5度のリーグ優勝、3度の日本一に貢献。2012年に野球殿堂入り。

心はいつでも野球少年。
打たれたっていいじゃないか! 直球勝負でいこうじゃないか!





たくさんの方にご参加いただきました。



北別府さん、背も高いし、偉大なピッチャーは大きく見えます



ユニフォーム姿がかわいい少年球児から花束



最後に高校球児にメッセージ。大きな声を出せ、という厳しい指導もありました

明野クララ元気ツアー

こつ・かんせつ・リウマチセンター長 藤川 陽祐

「Akeno クララ元気ツアー」、Akeno ・Chalage (チャレンジ) して・Limitation (制限) があるなかで・Akaruku (明るく) ・Rheumach (リウマチ) でも・Alps (アルプス) へ元気で行こうツアー (Clara はアルプスの少女ハイジに出てくる足に障害のある少女の名です) と名付けたスイスアルプスを目指す旅をしてから3年。今回は、「もう一度ヨーロッパへ行きたい」、「今度は私も海外へ行きたい」という声に応えてオランダ・ベルギーへ行ってきた。

オランダでは有名な美術館を訪ね数々の名画を観ることができた。中でも強く印象に残っているのはレンブラントの作品で、迫りくるような圧倒される感じがあった。もともと芸術関係は苦手意識があったので、こんな機会でもなければ美術館を訪れることもなかっただろうと考えると貴重な経験となった。もう一つ印象的だったのが運河のクルージングである。普段日本に暮らしているといつもどこかに山が見えるが、オランダでは延々と山の無い風景が続いていた。

オランダからベルギーへとバスで移動した。異国に移動するので国境がどうなっているか興味があったが、なんと道路沿いに国境の標識が立っているだけであった。ユーロで通貨が統一されているといっても国境がここまで簡略化されているのには驚いた。

ベルギーでは中世の風景が残る美しい町ブルージュを訪れた。町並みはとても綺麗だったが、石畳が続き車椅子での移動には困難であった。今後の反省点である。

最後にキリスト教について食事より学んだこと。カトリックとプロテスタントのことは、学生時代に歴史の授業で宗教改革として学んでいた。司教のいる教会の華やかな飾りや偶像崇拝をよしとしないプロテスタント、質素でいいなと思っていたのだが浅はかであった。カトリックの国では、司祭に喜んでもらいたいとおいしい料理を開発していった。フランス料理・イタリア料理・スペイン料理、みんなカトリックの国だ。旅をして学ぶことは多い。



出発前、当院玄関前にて

明野クララ元気ツアーに参加して

前回の北海道ツアーに引き続き、初めての海外旅行で英語も話せないという不安要素はありましたが、今回のツアーに参加された方たちは前々回のスイスにも参加された海外旅行経験豊富な方ばかりでしたので海外旅行のいろはを教えていただきながら、前回の反省もふまえ、参加された方が楽しく旅行できるお手伝いができたらと思い参加しました。

今回の旅行は、バスを貸し切り、街の中心部のホテルに連泊だったため、大きな荷物を持つでの移動が少なく時間短縮や負担軽減にもなり、その分観光や買い物に時間が取れたと思います。お天気にも恵まれ、雨に遭遇することもなく観光を満喫できました。ヨーロッパの文化や生活に触れることで日本の良さや便利さも再確認できました。

観光途中でのトラブルは、ベルギーのブルージュで長い石畳を歩いた時に、車椅子が室内用であったため乗っていた方の首にかなりの負担がかかったこと。ふだん歩き慣れていない石畳を長時間歩いたため膝や足に痛みが出て歩行困難になったことでした。転倒や気分不良などなかったことで事なきを得ましたが、事前調査不足と反省しました。

無事終わろうとしていた矢先、飛行機がエンジントラブルで飛ばないという最大のアクシデント発生。予定時刻より大幅に下がりましたがソウル経由で帰国でき、仁川国際空港でも買い物も楽しめたというアクシデント。まだまだあった。福岡空港に荷物が届いてないダブルアクシデント。

これも旅行の醍醐味という藤川先生の言葉で締めくくられた楽しい旅でした。

旅行後体調不良で受診という方もなく無事終わったこと、皆さんが楽しんで笑顔になってくれたこと、参加して良かったと思います。皆さんに笑顔と喜びを与えることができるのであればまた参加したいと思っています。

最後にこの機会をあたえてくれた先生方や快く送り出してくれた職員の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

外来看護師 竹森美穂子



アムステルダム国立美術館

明野クララ元気ツアーに参加して

第3回明野クララ元気ツアーが決定した時、リウマチケア看護師の勉強中だった私は少しでも力になればと思い参加を決めました。第1回、第2回のクララツアーに参加したスタッフからアドバイスもいただき、事前に参加者全員の身体機能評価を行ない、持参品を検討しました。ホテルの浴室の造りは最後まで確認できませんでした。私個人的には英語が話せない、乗り物酔いする、大麻が合法の国なんて怖いなどの不安もありました。

いざ、アムステルダム空港に到着すると空気の違いに驚かされました。9月の初旬というのに爽やかな風と青空が広がっていたのです。中世の街並はまるで絵本の中にいるようです。美術館などの施設は車椅子でも利用しやすくスタッフもとても親切です。ただ、世界一身長の高いオランダ人の住む国は日本人には造りが大きいのです。また、ブルージュの石畳はとても素敵な場所ですが、歩きにくく車椅子はガタガタ揺れます。旅も中盤となると疲れが出て来ます。2台しかない車椅子を患者さん同士が譲り合う場面があり、準備不足を反省しました。

2010年の「リウマチ白書」（日本リウマチ友の会発行）では、リウマチ患者さんが「今したいこと」の1位が「温泉や旅行に行きたい（69.2%）」でした。温泉などの旅行は患者さんの変わらない望みのようです。患者さんは長距離が歩けない、免疫が弱い状態にあることなどから、一般の忙しいツアーは、とても参加が困難です。英語の話せる医師や旅行スタッフが同行する海外の旅行ツアーはとても貴重な機会です。今回、少しでも夢を叶えるお手伝いが出来たのなら大変光栄です。おいしいお酒と食事、参加者の笑顔、自作の旅行パンフレット、旅行後の写真集…私の方が参加者の方々に励まされた場面が多くありました。

今回、一生の思い出を共有できる貴重な機会を与えてくださいました病院関係者、並びに明野クララ元気ツアー参加者に感謝申し上げます。

外来看護師 椎原 つぼみ



ゴッホ美術館



ブリュージュ

明野クララ元気ツアーに参加して

明野クララ元気ツアーに患者さんのサポート役として参加しました。旅行前は荷物持ちやバスの乗り降りの介助、身の回りの介助など必要と思っていました。しかし、患者さんはほとんど自分のことは自分ででき、サポートが必要な場面が少なかったです。私が心配していたのは歩行距離です。車椅子も用意していましたが、旅行では長い距離を歩いて観光するので歩けなくなるのを心配していました。しかし、オランダの美術館ではサポート役のスタッフより早く歩き、多くの絵を鑑賞していました。患者さん1人ひとりの行動力、エネルギーには驚きました。

今回の旅行で初めて知ったことは、トイレ、お風呂、シャワーなどの水回りが日本人に合わないことです。患者さんにはトイレの便座は高く着座しにくく、シャワー入口の段は高く上がりにくかったです。お風呂は広くて浅いため、滑って浸かりにくいそうです。観光地の旧市街は石畳みの歩道が多く車椅子では振動が強く患者さんの首に負担が大きく辛そうでした。事前に調べていても実際に経験しないと気付かないことでした。

帰国する際は飛行機トラブルがあり韓国経由となり荷物が遅れて届くことがありましたが、患者さんに怪我もなく無事に帰れたのが良かったです。後日、外来で来た患者さんに旅行の写真と感謝の言葉を頂きました。

作業療法士 春岡 宏明



ベルギーの首都 ブリュッセル



北海を望むビーチリゾート
スヘフェニンゲン



明野クララ元気ツアーに参加して

2012年9月の明野クララ元気ツアーから約2年…リウマチで当院にかかわりのある患者さんを中心に、第3回明野クララ元気ツアーを企画。当病院の支援もあり、2014年9月2日～2014年9月8日の7日間で総勢17名によるオランダ・ベルギー旅行が実行されました。今回の旅行はリウマチ患者5名、付き添い4名、医師1名、看護師2名、理学療法士1名、作業療法士2名、添乗員1名が参加することとなりました。旅行の行程としては9月2日現地時間16時到着。3～4日はオランダ観光。5～7日はベルギーを観光しました。9月8日日本時間昼に到着の予定となっていました。

オランダの紹介です。オランダでは美術館を中心に観光し、有名な国立美術館・ゴッホ美術館に行ってきました。国立美術館ではフェルメール作「真珠の耳飾りの少女」を見ることができ、ゴッホ美術館では有名な「ひまわり」を間近で見ることができました。そしてオランダといえば風車。キンデルダイクの風車群はこれぞオランダ！と感動しました。

続いてベルギーの紹介です。ベルギーアントワープに到着してから、すぐノートルダム大聖堂をバックに集合写真を撮りました。ノートルダム大聖堂といえば、フランダースの犬が有名です。広場にはトヨタが寄贈したネロとパトラッシュの記念碑があり、「日本人のベンチ」と呼ばれているそうです。そしてブリュッセルでは高級チョコレート店のコディバ本店へ行くこともできました。また、そこでは服を着ている小便小僧にも出会えました。国内でイベントがある時は水の量に変化したり、ワインが出てくるところもあるそうです。

旅行を終えて、参加した患者さんからは「体が元気になった。」「一生の思い出になった。」という言葉が多く聞かれました。また今回の旅行の報告会に参加した入院患者さんから「すごく感動した」、「今治療しているところを良くして、ぜひ次の旅行には参加したい」という言葉を頂きました。この旅行に参加した人だけではなく、同じ病気で落ち込んでいる人にも勇気や希望与え、その人の入院生活の目標が、病気が良くなる事、ただ家に帰る事だけではなく、さらにその先の明るい未来につながる手段になりうるのではないかと感じました。

今回の旅行を通して、「体が動けば心が動く、心が動けば体が動く」を体感することができました。1つの観光地を観光するには30分～1時間程度歩く時がありましたが、みなさん疲れた様子も見せず「休みたい」と言う人もいませんでした。普段の生活で旅行のように長く歩くことは少ないと思います。「みなさんと話して歩きたい」「同じものを見て感動したい」「あの人も歩いているのでもう少し頑張ってみよう」「迷惑をかけられない」など、人それぞれの思いがあったのかもしれませんが。そのような思い（心）が体を動かし、普段歩けない距離を歩けたのだと思います。この経験を業務に活かし、患者さんの体だけではなく心も動かされる関わり方をしていきたいと感じました。

理学療法士 鞭馬 貴史



「オイルショックをご存じですか？」

「オイルショックをご存じですか？」

当院は1974年1月（昭和49年）に開院しました。病院建物の建設工事が行われた1973年頃は、日本はまさにオイルショックのために大変な状況下におかれていました。1973年10月6日に第四次中東戦争が勃発し、ペルシア湾岸産油6カ国は原油価格を21%引き上げ、原油生産の削減とイスラエル支援国への禁輸を決定、さらに12月には翌1974年1月より原油価格を2倍に引き上げるとしたのです。当時の日本はエネルギーをほとんど中東の石油に依存していたため、景気を直撃。その結果便乗値上げが相次ぎ、急速にインフレが加速、国内の消費者物価指数は23%も上昇しました。このため国内は大混乱に陥り、トイレットペーパーや洗剤等日用品の枯渇、買い占め騒動など、庶民の日常生活にも大変な影響を与えました。当時私は小学生でしたが、愛読していた少年ジャンプが、はじめは黄色い電話帳くらいのボリュームでしたが、毎月厚さが薄くなり、最後は20ページ以下のペラペラの薄いものになりました。またタミヤの軍艦プラモが高騰し全く買えなくなりました。私の友達などは、お母さんに言いつけられたのか、「大便是学校で」と登校直後にトイレでがんばっていました。ネオン、テレビの夜間放送やデパートのエスカレーターなども止まりました。子供から大人まで、日常生活に大打撃を与えたわけですから、建築工事中であった当院も否応なしに影響を受けました。日本中のコンクリート等の建築資材があつという間に買い占められて枯渇し、ある日を境に価格も数倍以上となり、本院も例外なく建築途中での計画変更を余儀なくされたのです。私も当時の苦労を理事長などから聞いてはありましたが、当時小学生の私には詳細はよくわかりませんでした。

時代は遷り、つい最近、古い書類綴りの中から非常に貴重な当時の設計図面を発見しました。図面によると当院は地階1階地上4階建てで、現在の医局階も病室や看護婦宿舎等になる計画だったようです。現在の4階物干し場や当直室西側も部屋になる計画だったのです。3階までの既存部分は図面通りであり、4階の工事を始めた直後にオイルショックが起こったものと考えられます。まさに今国会で議論されている国民の生活に重大な影響を与える事件だったのです。病院開設に携わった先人の苦労が偲ばれます。

副院長 中村英次郎

花日記 ～2階ウッドデッキから～

2階ウッドデッキの花だんにはボランティアの方々が育てた四季折々の花が咲いています。
傍らの「花日記」には多くの書き込みが・・・

花を通して心が伝わるのがいいなあ・・・苗を育てた人、植えた人、世話をしてくれている人、それをみて心癒されている人・・・「美しいな」と思う心は同じ・・・

（花の命は短くて苦しきことのみ多かりき）という歌がありますが、私も花が大好きで桜の季節は、特に好きです。今年は肋骨を折り、只今入院中で、早く元気になりたいと思います。

五月晴れのいいお天気、花達も元気です。初めて見たピンクのお花カワイイ……。病院の周りにも緑が増えて……。いいですね。看護師体験の花植えもまた楽しみです。どんな花達が顔をそろえてくれるやら。



手術後 1 週間、最初の 2 日間はお花を見る事さえできずベットでひたすら痛みとの戦い。3 日目リハビリ室から玄関のあふれるばかりの花が目に入り、痛みを忘れて見入っていましたが、我に返った。踏み出した左足の一步で激痛。あー、今日で 1 週間。部屋で色紙を折ったり談話室から花やグラウンドをゆっくり観れたり、本当に幸せを感じます。花を育ててみたいと思いますが、前屈みダメだからとあきらめたり、花壇を高くすれば何とかなると 1 人 2 役の私がいつもプラスとマイナスの意見を言い合います。ここの病院は看護師さんも介護士さんも先生方も私を良くして下さる事だけを望まれる。空に向かって伸びる青葉のように皆様同じ方向を向いていらっしゃるから、私もそれに乗かって一緒に元気になれると思ってガンバレル。皆で同じ方向を向いてガンバレルのはうれしい。



今日で入院 3 日目。手術が近いので同室の方が口々に痛いぞと言う。耐えられるかな。しかし、腰痛が克服できて旅行が出来る事がとても楽しみだ。

最近雨が多く、気分がめいってしまいますが、日記を読んで皆様からの元気を頂きました。

台風が来ています。うれしい今日退院だ。今日から自分の足だけで歩けるようになった。手術はとても痛かった。告知義務(笑い)があるぞ！

午前中に母の手術が無事に終わりました。先生、看護師さん本当にありがとうございました。これからは回復するのみ。おかあさん、よかったね。痛みによくてええと思います。今朝は涼しい朝でした。

学校の生徒さん達も学校が始まりました。我々入院の方々も子供さんを見て気持ちを新たに頑張らなければと言いつけ退院の日を待っています。先生、看護師さん毎日ご苦労様です。本当に有り難うございます。

今日、家内が退院します。手術後 3 週間、すっかり良くなり、元の笑顔の素敵な妻にもどりました。本当に有りがとうございました。先生をはじめナースの皆さんのおかげです。これからも 2 人仲良く楽しい毎日をすごします。ありがとう。

母の足の 2 回目の手術。無事終わりました。これから春に向けて、一人で自立して、再び元気な生活を送って欲しいものです。こちらでの入院時の食事をせつせとノートに記入して、帰宅後しっかり作って食べようと張り切っていました。やはり、食べて心も体も元気になりますね！多くの方々による支えのもとで、心も元気になって頂きました。こちらの看護師さん、どなたもテキパキとありがとうございました。病院に植えられている花々、春になって、色鮮やかに輝いて元気を頂きました。私も元気をもらいました。春から頑張ろう！皆様にも良き事がありますように！

小さな待合室

明野中央病院 今昔写真

病院の待合室は患者さんが多く訪れる日もあり、来院された患者さんが椅子に座ることが出来ない場面を時々目にします。

そんな病院待合室も以前は外来よりも長期療養を目的とした入院患者さんが多く、長椅子が数本ある程度の小さな待合室でした。写真上右側に見える白い部分は『喫煙所（写真下）』左手側に『テレビ』と『受付』。その奥に『診察室』がありました。増改築が行われるまでは診察室は現在の位置と逆側でした。

平成 27 現在



平成 9 年頃の待合室



「喫煙コーナー」もありました

正面駐車場の小さな森

明野中央病院 今昔写真



平成 9 年頃の正門付近。現在は駐車場になっています。

平成 27 年現在



正面駐車場を屋上から撮影した写真が見つかりました。現在の駐車場と比べると緑の多さに驚かされます。当時は外来の患者さんよりも長期間入院される患者さんが多かったため、緑の多い庭になったのでしょうか。駐車場は写真右側に数台ある程度でした。

変わりゆく時代や変化を続ける医療体制の中で病院も増改築が行われ緑は減少しましたが、長期療養中の患者さんがくつろげる小さな明野の森があったことはしっかりと写真の中に残されています。